

周防大島中学校 研修通信 vol.17 最終号

すべての生徒が「わかる」「できる」授業をめざして

今年度も終わりを迎えました。研修通信も最終号となりますので、来年度につながる内容で締めくりたいと思います。それが以下の内容となっています。今年度の研修主題は、「すべての生徒が『わかる』『できる』授業をめざして ～授業参加と授業理解のデザイン～」でした。特に「授業参加」に焦点を当て、参加を促すための導入に力を入れながら、1年間授業づくりに取り組んできました。今年度の成果と課題を整理し、来年度へとつなげていくことが大切です。

生徒の実態を踏まえた導入の後には、魅力的な展開が求められます。そして、その展開で学んだ内容を整理し、自分自身の言葉で授業を振り返る終末が用意されていることも重要です。こうした一連の1時間の授業の流れをより良いものとするために来年度の日々の授業改善を積み重ねていきましょう。

授業改善に関連して、石井英真さんの著作を紹介します。石井さんは京都大学大学院の准教授であり、次期学習指導要領の改訂にも深く関わっておられます。数ある著作の中でも、『授業づくりの深め方「よい授業」をデザインするための5つのツボ』は、一般的なハウツー本とは一線を画す、非常に示唆に富んだ一冊です。本書の中で石井さんは、授業づくりの5つのツボを提示しています。

- ①「目的・目標(goal)を明確化する。
- ②「教材・学習課題(task)」をデザインする
- ③「学習の流れと場の構造(structure)を組織化する
- ④「技とテクノロジー(art&technology)」で巧みに働きかける
- ⑤「評価(assessment)」を指導や学習に生かす



この本では、これまでの先人たちの実践研究をもとに、5つのツボについて詳しく述べられています。一見すると、これら5つのツボは目新しいものではないように感じられるかもしれませんが、しかし、石井さんが最も伝えたいのは、これらをそれぞれの教員が理想とする独自の授業を創造する際の「視点」とし、自らの授業を実践した後には、必ずその「視点」に基づいて振り返り、改善案を考えてほしいという点です。

理想とする授業像は、「個別最適な学び」「協働的な学び」「自由進度学習を取り入れた授業」「伝統的な一斉指導を中心とした授業」など、教員一人ひとりによって異なることでしょう。それらを実現するために、日々高いレベルでリフレクション(振り返り)を行うことが、より良い授業の実現につながっていくのだと思います。裏面には、「『わかる・できる』授業づくり 6つの心得・3つの授業UD視点(案)」を掲載しています。この案をたたき台として、来年度、周防大島中学校独自の授業のツボ(視点)をともに作り上げていきませんか。

参考文献

石井英真『授業づくりの深め方「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ図書 2020年
千々布敏弥『先生たちのリフレクション 主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣』教育開発研究所 2021年